HAND in HAND
JA ONOMICHI GENERAL HOSPITAL

おのみちがん登録ネット NO.11

2024 年 9 月

JA 尾道総合病院　病院長：田中 信治
副院長・キャンサーボード運営会議長：花田 敬士
診療情報管理科　がん登録室

今回のテーマは **食道がん** です。

【“食道がん” における 院内がん登録ルール 】

UICC TNM 分類［第 8 版］“食道”での病期分類適応対象は癌腫（Carcinoma）です。

※UICC TNM 分類［第 8 版］では「食道胃接合部/胃食道接合部の腺癌も対象とする」と記載があるが、院内がん登録ではこれを採用せず、局在コードが C15（食道）のコードの時のみを対象とする。

◆ 局在コード

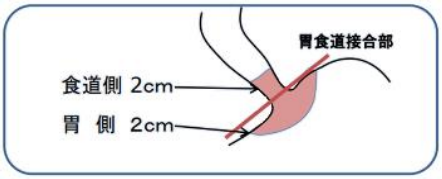
右の表は、ICD-O-3 の局在コードです。食道を 3 等分にした C15.3・C15.4・C15.5 のコードは院内がん登録では 使用しないことになっています。

また食道胃接合部の取扱いについても UICC および取扱い規約の定義は用いず、癌の壁深達度が最深部の部位　または、癌腫の中心部位のコードを付けます。

ICD-O 局在	取扱い規約	診療情報所見	備考
C15.0	Ce	頚部食道	門歯列※より~18cm
C15.1	Te, NOS Ut,Mt,Lt	胸部食道	門歯列より 18cm~40cm
C15.2	Jz	食道胃接合部領域	食道胃接合部の上下 2cm の部位
C15.3		上部食道 食道近位 3 分の 1	門歯列より~25cm （院内がん登録では原則として用いない）
C15.4		中部食道	門歯列より 25cm~35cm （院内がん登録では原則として用いない）
C15.5		下部食道 食道近位 3 分の 1	門歯列より 35cm~ （院内がん登録では原則として用いない）
C15.8		食道の境界部病巣	《例》MtLt →Mt と考え C15.1、LtAe→Lt と考え、C15.1 とする ←がん登録では先に書かれた部位で登録する。
C15.9	上記部位の記載がなく”食道”の記載のみのもの	食道 NOS （部位不明）	
C16.0	EG E=G GE	EGJ 食道胃接合部 （噴門 NOS）	≪院内がん登録では≫ 食道が主体 ⇒ C15.2 を使用 胃 が主体 ⇒ C16.0 を使用

【食道胃接合部癌の取り扱いについて】

≪UICC TNM 分類第 8 版≫
組織型が腺癌で、
接合部から食道側 2cm、胃側 2cmの範囲に癌の中心があり、接合部をまたいでいる癌



≪取扱い規約(西の定義)≫
組織型にかかわらず、
食道胃接合部の上下 2cm 以内に癌腫の中心があるもの

≪院内がん登録≫
・「胃側」と診断 → 「C16.0」とし、「胃癌」として登録
・「食道側」と診断 → 「C15.2」とし、「食道癌」として登録

◆ N 分類（UICC 第 8 版 と 取扱い規約 第 8 版 の相違点）

院内がん登録は、UICCTNM 分類【第 8 版】に従って登録します。

領域リンパ節は、取扱い規約では亜部位によって異なりますが、UICC では全亜部位同じです。

また、UICC では鎖骨上リンパ節は領域リンパ節に含まれていないので注意が必要です。

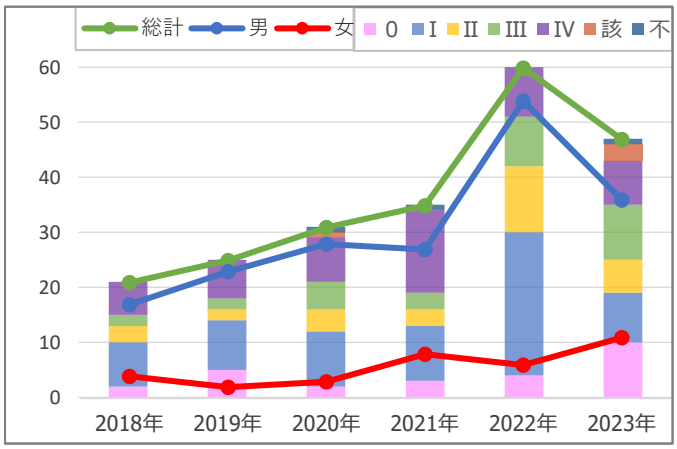
◆ 進行度（Stage）分類

Stage は、《扁平上皮癌》と《腺癌》で分類が分かれています。

《扁平上皮癌》と《腺癌》のいずれにも該当しない癌腫は、T 分類、N 分類、M 分類のみを付与し、ステージは「**該当せず**」を入力します。

出典：国立がん研究センターがん情報サービス 院内がん登録 部位別テキスト

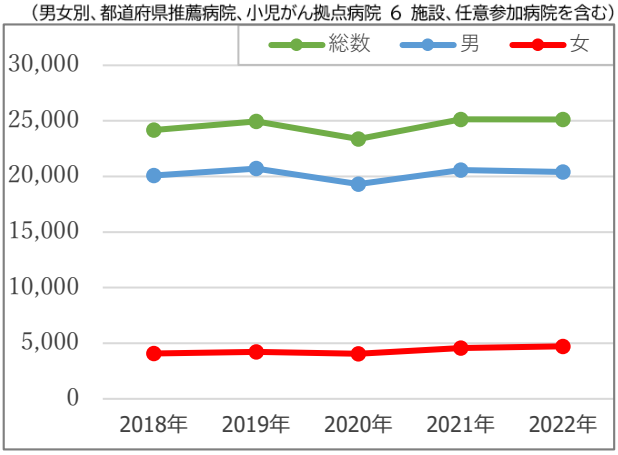
◆当院の食道がん登録件数 と ステージ別 登録件数



折れ線グラフは性別の登録件数 、棒グラフはステージ別の登録件数

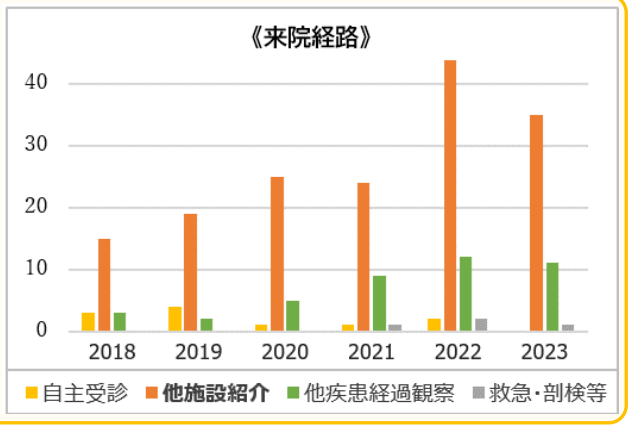
◆全国集計：がん診療連携拠点病院等における 食道がんの全登録数

（男女別、都道府県推薦病院、小児がん拠点病院 6 施設、任意参加病院を含む）



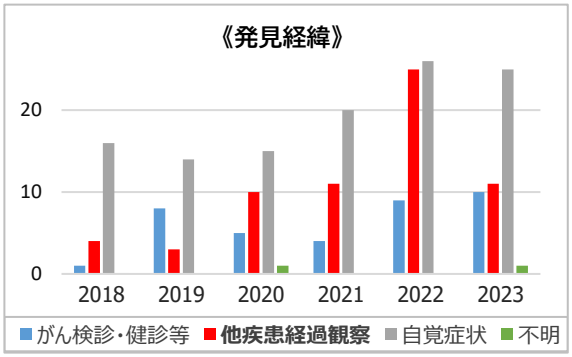
出典　国立がん研究センターがん情報サービス「院内がん登録全国集計」

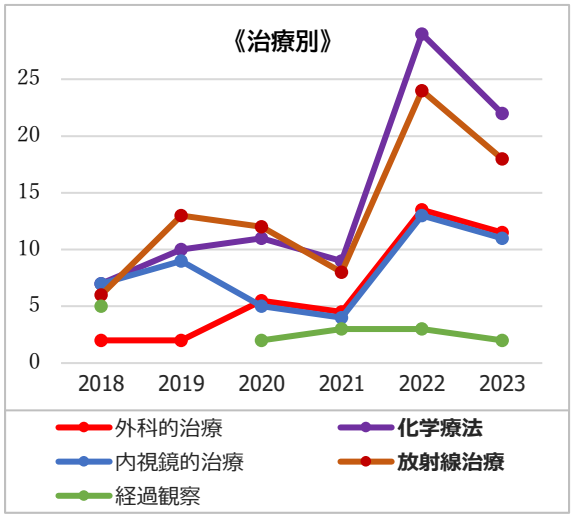
上のグラフは当院と全国の登録件数の推移です。
食道がんは男性に多くみられ、男女比は約 5:1 と言われています。全国集計での登録件数はほぼ横這いなのに対して、当院では 2022 年に急激に登録件数の増加がみられています。
右の図は当院の≪来院経路≫を表したグラフです。
当院の食道がんは「他施設紹介」により来院される方が多いですが、2022 年は前年に比べ 10 件以上増加していたことが分かりました。

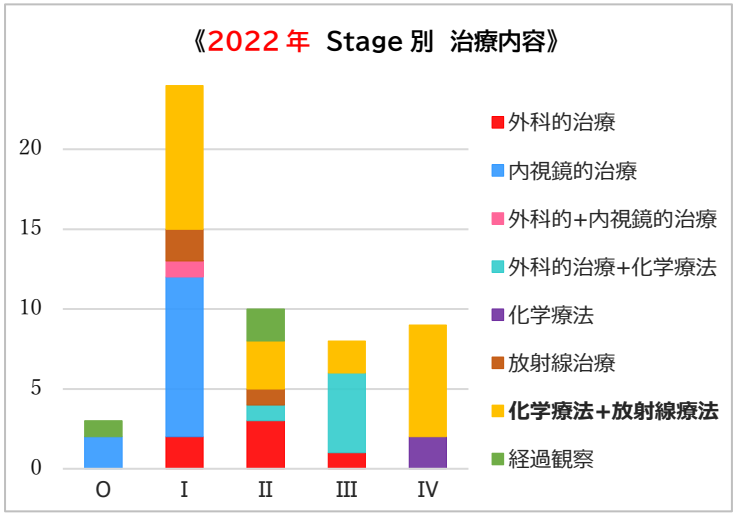


◆当院の 食道がん 登録状況より

≪発見経緯≫では「自覚症状」を契機に来院される方が多い傾向です。しかし、2022 年は他年と比べ「他疾患経過観察」中に発見された方も多くいました。また、≪治療別≫では「化学療法」と「放射線療法」が増加していました。そこで 2022 年に絞り Stage 別に治療内容を見てみると、2022 年の Stage I では重複癌の症例が多く、その影響もあり「化学療法+放射線療法」の件数が多くなっていたことが分かりました。







次回は“胆嚢・胆管がん”についてです。

【お問い合せ先】　JA 尾道総合病院　診療情報管理科 がん登録室 ： 平藤・多田
TEL : 0848-22-8111（代表）　　FAX : 0848-23-3214